

# 第19回 東京大学制作展 WYSIWYG?

## 開催のお知らせ

今秋、東京大学にてテクノロジー × アートの展覧会「第19回東京大学制作展」が開催されます。一般の方に、技術に親しんでいただく接点となるべく、毎年開催されている本展覧会。東京大学の学生たちが、日々の研究で培っている技術を芸術として昇華させた、個性豊かな作品が並びます。

第19回目となります今回のテーマは、“<sup>ウィジウィグ</sup>WYSIWYG? – What You See Is What You Get?”です。私たちは見えるもの、そこにあるものを、ありのままに捉えられているのでしょうか。ふだん気がついていない、あるはずの世界を、様々な形で体験できる展覧会です。

### 開催概要

会期：2017年11月16日(木) – 20日(月)

会場：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館 / 他

開場時間：12時 – 20時

入場料：無料

(最新情報はWEBサイトをご参照下さい)

最寄駅：千代田線 根津駅 徒歩8分

南北線 東大前駅 徒歩10分

丸の内線 / 大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩12分

主催：東京大学大学院 情報学環・学際情報学府

WEB：<http://www.iiexhibition.com/>

## 作品のご紹介



### EmoT eye

暦本研究室 松田暁

本作品は、自分の感情表現をサポートする T シャツです。

作品の体験者は、胸元に LED ディスプレイが埋め込まれた T シャツとメガネ型ウェアラブルデバイスを装着します。メガネ型ウェアラブルデバイスでは、眼球の動きや瞬きをセンシングすることができます。目の動きから装着者の感情を推定し、推定された感情に関連する絵文字が T シャツ上の LED ディスプレイに表示されます。

EmoT eye は、感情の表現を洋服と技術を用いて円滑にサポートする「エモーショナルウェア」の概念を提案します。



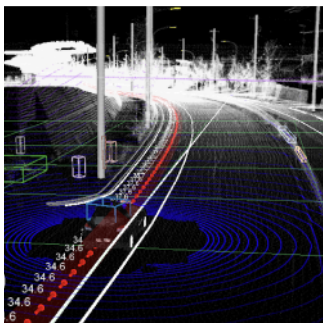
### How to Walking Branches

山中研究室 前川和純 他

木の枝が自ら「歩行する」機能を獲得する過程を表現し、規格品とは異なる機能の成立を発見する作品です。

通常の機械は規格化された部品で構成されています。では、一つとして同じものがない自然物で機械を構成するにはどうすればよいでしょうか。

本作品では、アクチュエーターで接続された木の枝が、機械学習によって自律的に機能を創発していきます。規格品に与えられる機能とは異なる機能の成り立ち方を発見できるでしょう。



### from2.5D

加藤研究室 有年亮博

実世界を自動運転ソフトの視点から見た風景を覗ける VR 作品です。

コンピュータの”目”から見る立体空間はよく 2.5 次元データと表現されますが、最先端の自動運転ソフトが見るそうした世界を VR によって体験できます。

ブラックボックスの中を覗き、技術の地平に待つ、少し先の未来を想像してみてください。



### bryophytes.io

廣瀬研究室 茂山丈太郎

コケ植物そのものをマテリアルとした 3D プリンタのコンセプト作品です。

CNC 技術は 3D プリンタによる樹脂成形や金属加工だけではなく、細胞培養や植物工場など、より生物に近い分野での応用も進んでいます。植物そのものがマテリアルになったら、どのようなプロダクトが生まれるのでしょうか。他にも、造形の過程でどのようなシステムが必要なのか、そのプロダクトはあくまで自然物といえるのかなど、様々な疑問を投げかけることで、鑑賞者に工学の未来について考えさせます。

W H A T

Y O U

S E E

I S

W H A T

Y O U

G E T ?

第19回東京大学制作展  
WYSIWYG?

## テーマについて

### “What You See”

見えるもの。あるはずのもの。

### “What You Get”

得るもの。あると認識するもの。

私たちは果たしてふだん、見えるもの、そこにあるものを、ありのままに認識できているのでしょうか。

現実世界では、そこに存在している全てのものごとから、光や音など、何らかの信号が発信され続けています。しかし、私たちはものごとを認識する過程で、無意識的に信号の取捨選択を行い、一部の情報をそぎ落としています。見えていないはずのものを、まるで存在していないものとして見落とし、気がつかないことがあるのではないのでしょうか。もしかしたら、見落としてしまったという事実すら気がついていないかもしれません。

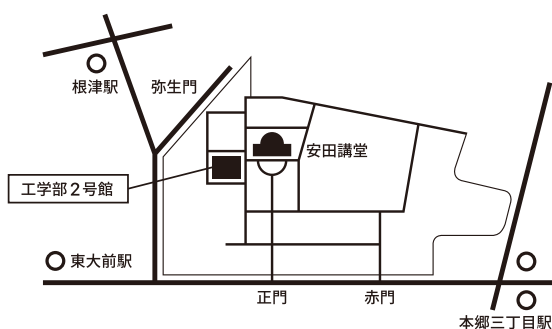
しかし、この見えていないはずなのに気がついていない領域、「あるはずの世界」にこそ、ものごとの本質があるのかもしれません。本制作展では、そんな「あるはずの世界」に焦点を当てた作品を展示しています。

### – What You See Is What You Get?

ないはずのもの。あるはずの世界。

みなさんを「あるはずの世界」へとお連れいたします。

## 会場案内



東京大学本郷キャンパス  
工学部2号館 他

※ 会場についての最新情報は、  
WEBサイトをご参照ください。

## 講師陣あいさつ



小松 宏誠

東京大学大学院 情報学環 非常勤講師



苗村 健

東京大学大学院  
情報学環 / 情報理工学系研究科 教授

赤川 智洋

東京大学大学院 情報学環 非常勤講師

東京大学大学院情報学環・学際情報学府では、学生たちが自らの研究的な関心をもとに表現活動に挑戦する学際的实践の場として「東京大学制作展」を開催してきました。表現活動と研究活動の両立は、同大学院が2000年に設立された当初からの大きなテーマです。この展示を通じて学生たちには、表現活動としては新たなキャンパスそのものを創出し、研究活動としては机上の空論に終わらない社会に開かれた研究スタイルを学んでほしいと考えています。

今年度7月には、好奇心を刺激するさまざまな隙間に着目し、思わず覗いてみたくなる展示会を目指して、“SUKIMANIAC”というテーマで制作展 Extra を開催しました。そこでの経験やフィードバックを活かし、今回の第19回東京大学制作展のテーマは“WYSIWYG?”に決まりました。我々から見えているもの (What You See) はものごとの一つの側面に過ぎず、我々が得るもの (What You Get) にはそれ以上のものがあるのではないかという問いかけです。まだ粗削りではありますが、可能性を秘めた原石たちの取り組みをご覧ください。みなさまのご来場を教職員、学生一同、心よりお待ちしております。

## 学生あいさつ



## 監督

奥部 諒

東京大学大学院 学際情報学府 佐倉研究室  
修士課程 1年

東京大学制作展は毎年 2 回、主に 7 月と 11 月に行われているテクノロジー作品を中心とした展示会で、課外活動ではなく講義の一環として運営されています。

運営は学際情報学府、工学系研究科の大学院生を中心として行われておりますが、メンバーのバックグラウンドは多岐に渡り、情報学環教育部や東京藝術大学の学生も参加しています。専門分野も、最近話題の AR/VR や AI、建築、芸術、コミュニケーション学など様々です。これだけ多分野の学生が集って一つの展示会を作り上げる機会は、大学のみならず実社会においてもそう多くはありません。また、学生は運営者であると同時に作家、アーティストでもあるのがこの制作展の特徴です。つまり、この制作展は自ら作家となって作り上げたものを展示する「場」を、これもまた自らの手で作り上げるという他に類を見ない講義です。故に、作品と展示会の親和性や関連性を深く考えながら企画・運営することが可能です。

制作展では、毎年異なるテーマを設定しそれに合わせて企画を進めています。今年のテーマは“<sup>ウィジウィグ</sup>WYSIWYG? – What You See Is What You Get?”です。普段私たちが見ている、意識している世界が本当の世界なのでしょうか？私たちが気付いていないだけで、視点を変え、意識を変えれば見えてくる世界があるかもしれません。そんな世界を皆様に体感していただければ幸いです。スタッフ一同お待ちしておりますので、ぜひご来場下さい。